

● 聖霊降臨主日

泉のほとり

今月の詩編「第二十九編」

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。



主は天におられて

今日は教会の暦で「昇天後主日」です。復活された主イエスは弟子たちと四〇日間を過ごされて天にお帰りになりました。先週の木曜日が昇天記念日です。

いつたい天とは何か。天はどこにあるのか。不思議に思うことがあります。天の国、天国は人が死んでから行くところだと思われていますが、聖書にはそのようなことは書いてありません。天は神さまが支配されるところです。

聖書には、天が開けると書いてある箇所があります。主イエスが洗礼をお受けになったときには、天が開けて聖霊が鳩のように降りて来るのをご覧になりました。ステファノがユダヤ人たちに石打ちで殺される時には、天が開けて主イエスが立つておられるのが見えたと言います。

天はどこか遠いところにあるわけではありません。「天は聖餐のパンの裏側にある」と言った人がいます。わたしたちが聖餐のレールの前に跪いて手を伸ばし、パンを受け取るとき、そこは天だということです。だから天に帰られた主はたびたび、「わたしはあなたとたと共にいる」と言われました。天におられる主は、わたしたちと共にいてくださるのです。

ある牧師が説教の中で、主が天にお帰りになって、わたしたちの世界と天との交わりが生まれたと言っています。わたしたちの世界が天の世界と統合され、合併されたというのです。教会はこの合併が起こって

ることを地上で明らかにする群れです。だから教会がある人を受け入れるとき、天もまたその人を受け入れるのです。

天に帰られた主は、わたしたちのために場所を用意してくださると、ヨハネ福音書第一四章で主が語っておられます。それは天の家族の中に、わたしたちの居場所を作ってくださいことです。家に新しい子どもが生まれるときには、新しいベッドや産着を用意して迎えます。食卓に小さな椅子を用意するかも知れません。そのように神の家族の中にわたしたちの居場所を用意されるのです。

罪があつては、天には入れません。ですから、居場所を用意するためには、罪の赦しのための執り成しが必要です。主は父なる神さまの右におられて、わたしたちのために執り成してください。

天に帰られた主は、もう一度わたしたちのところに戻って来られます。主の再臨です。マタイによる福音書第二五章に、花婿を待つ一〇人のおとめの話があります。暗い夜道を、花嫁の家を訪ねてくる花婿のために灯火を手に花婿を待つのです。

旅に出て夜帰宅したときに、門や玄関に明かりがついていると嬉しくなります。自分を待つていてくれたとわかるからです。主イエスも灯火を手に迎えて欲しいと願っておられます。「あなたを待つている者がここにいます」ということを示す灯火です。聖霊の助けを受け、灯火を灯しつつ、わたしたちも主イエスを待つのです。

(使徒一・六〇一、ヨハネ一四・一〜六)

吉村和雄 名誉牧師

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 本日はペンテコステ礼拝です。

○ 祝会の後、コイノニアキャンプ参加者の準備会をカナルルームで行います。関係者の方はご参加ください。

今後の準備会の予定は左記の通りです。

六月二十九日(日)、七月二三日(日)、七月三日(水)。

○ 二〇二五年度の教会員名簿をひと家庭に一冊ずつ配布しました。更に必要な方は事務所にお尋ねください。個人情報のため、お取り扱いには十分ご注意ください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会は休会です。

《礼拝伝道委員会より》

本日、一二時からペンテコステ祝会をホールにて開きます。讚美に続き、入信記を含む証し会と愛餐会があります。

愛餐会は各自持参のお弁当で交わりの時を過ごします。また、お茶のサービスがございます。どうぞ、どなたでもご参加ください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇二十九篇】賛歌。ダビデの詩。

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。

主の御声は水の上に響く。

栄光の神の雷鳴はとどろく。

主は大水の上にいます。

主の御声は力をもって響く

主の御声は輝きをもって響く。

主の御声は杉の木を砕き

主はレバノンの杉の木を砕き

レバノンを子牛のように

シルヨンを野牛の子のように躍らせる。

〔司・会〕

主の御声は炎を裂いて走らせる。

主の御声は荒れ野をもたえさせ

主はカデシユの荒れ野をもたえさせる。

主の御声は雌鹿をもたえさせ

月満ちぬうちに子を産ませる。

神殿のものみなは唱える「栄光あれ」と。

主は洪水の上に御座をおく。

とこしえの王として、主は御座をおく。

〔司・会〕

どうか主が民に力をお与えになるように。

主が民を祝福して平和をお与えになるように。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・礼拝堂）

説教 「聖霊が来られた」

聖書 使徒2章1節～13節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「イエス・キリストの名によって立つ」

聖書 使徒3章1節～10節

説教者 吉村和雄名誉牧師

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讚美歌 69番 341番

説教 「試練の原因は」

聖書 ヤコブ1章12～15節

説教者 黄允湜牧師





ペンテコステ礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 182番 185番
説教 「神の偉大な業が語られた」
聖書 使徒2章1～13節(新約 P.214)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「来たれ聖霊、主なる神」J.S.バッハ

○讃美歌182番

1. 来ませ みたまよみ座よりくだり
ひかりをてらしたまものさずけ
まずしきものを 富ましめたまえ
2. なぐさめぬしよ こよなき友よ
わがたましいを さわやかにして
あだよりまもり いこいをたまえ
3. 奇しきひかりよ てりいでたまえ
きみ来まさずば 生くるはむなし
よきものみなは きみよりきたる
4. 傷つくものに いやしをあたえ
冷えるものを あたたかにして
まがれるものを なおからしめよ
5. きませ みたまよ もとむるものに
知恵とちからを ゆたかにさずけ
おわりの日には すくいをたまえ

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「主よくだり給え」 S.Pethel 作曲
来たりたまえ この日
くだりたまえ 聖霊よ
御名により集い 主を褒め称え
わが主の命は 我らに満ちる
与えられしすべて信じ
日ごとに 祝福を祈る
そして我ら願う
来たりたまえ この日
くだりたまえ 聖霊よ
主の家族として 一つの心
あなたの救いを 喜び受ける
祝福をたまえ 幼子たちに
若き者 老いたる者らすべてに
来たりたまえ この日
くだりたまえ 聖霊
主よ 来たりたまえ この日
くだりたまえ 聖霊
我らに 主よ 我らに

○讃美歌185番

1. きよきみたまよ おぐらぎころ
てたしたまえや みひかりをみて
2. きよきみたまよ うちなるつみを
きよめたまえや みちからをもて
3. きよきみたまよ このうき身にも
みたしたまえや あまつよろこび
4. みたまよ たえず ところに住みて
おさめたまえや のこるくまなく

アーメン

聖餐曲「ペンテコステの祝い」C.サウザン

後奏曲「地よ喜べ、天よ喜べ」M.レガール